

遍路の歴史を語る真念庵(高知県土佐清水市)を護る

公認先達 歩き遍路の会 会長 山下正樹

私たちお遍路さんにとって、聖地ともいえる真念庵(しんねんあん)がある。

真念庵は四国遍路で最も距離が長い三七番札所・岩本寺から三八番札所・金剛福寺に至る遍路道約81キロのほぼ中間地点にあり、四万十川を渡り、伊豆田峠を越えた三原村との分岐点付近の遍路道にある。高知県土佐清水市下ノ加江市野瀬村にある江戸時代から続く[四国遍路の父]ゆかりの真念庵。現在、お遍路さんは、年間15万人、うち歩き遍路は5千人と言われているが、遍路道沿いにあるこの「遍路の父」と言われた真念ゆかりの真念庵を参拝する人は「年間約500人しかいない」と納経所の方は、淋しそうに話してくれた。

公認先達・歩き遍路の会は、毎年、歩き遍路の時、「遍路の父」と言われた真念ゆかりの真念庵への参拝と周辺遍路道の整備作業を行い、真念の遺徳を護るお手伝いをしている。

弘法大師像を祭っている約20平方メートルのお堂は、代々、地区の住民が管理し約30年前に補修したが老朽化が進み、今年1月の地区総会で改築実行委を組織した。同規模での建て替えには500万円が必要というが、地区世帯数は26軒しかない。実行委員長らは「年金生活者も多く住民だけでは資金調達は難しい」と寄付を募ることにした。

真念庵は、戦後昭和三〇年代頃までは宿泊の施設もあり実際に遍路の宿泊や休息の施設として利用されたが、その後は無住となり日常的に管理ができないため、普段は施錠され堂内は公開されていない。建物の補修管理は地元市野瀬の集落26戸が、お世話をしている。

皆さん、真念庵改築の支援をお願いします！こうした取り組みは広く全国のお遍路関係者が応援することに意味があります。

真念庵所蔵資料は、遍路の信仰と文化を物語る民俗資料であり、真念庵はいわば、遍路文化に関する生きた民俗資料を所蔵するタイムカプセルであるともいえる。

真念庵は近世の庶民信仰と遍路文化をつたえる多くの資料を所蔵しているが、現状は堂舎の老朽化が著しく無住のため資料の盗難や散逸の恐れもある。これらの貴重な庶民信仰に関する資料の保存のためにも老朽化した真念庵の堂舎の早期の修復が必要だ。

真念は江戸時代初期、ガイドブックに当たる「四国遍路道指南(しこくへんろみちしるべ)」を記すなど、遍路文化を広めた僧の一人。真念庵は、真念の名を冠した番外札所の中でも重要な場所である。

従来、僧侶の修行の場であった四国遍路が一般民衆に受け入れられ一大ブームとなったのは江戸中期のことである。このような四国遍路の大衆化の動きの火付け役となったのが「四国遍路の父」とされる真念である。高野聖の真念は、自らも四国遍路を二十数回めぐり、巡礼者のために二〇〇以上の石の道標を建立している。二〇基ほどが現存しその一つが土佐清水市下ノ加江の

県道三原分岐に残されている。

真念庵は、大師信仰に篤い地域の人々の協力を得て建立された。これは此処から足摺岬の三八番金剛福寺を打戻り、三原、長谷を経て三九番延光寺に巡礼する遍路の往復の便宜のためであった。

真念は元禄五年(一六九二)に四国遍路の途上でこの世を去ったが、以来真念の名を冠した真念庵は近世から近代にいたる多くの遍路に利用され遍路文化の形成に重要な役割をはたした。

真念の功績として最も重要なのが四国遍路の便宜のために巡礼のガイドブックともいえる『四國徧禮道指南』を貞享四年(一六七八)に出版したことである。『四國徧禮道指南』は四国遍路をめざす人々のベストセラーとなり、同書を手にした多くの人が四国遍路に旅立ったのである。

また真念は巡礼の遍路が休息や宿泊するための庵を建立しており、真念が建立した大師堂真念庵が土佐清水市下ノ加江、市野瀬地区に残されている。同書には真念庵について「市野瀬村さかうらより是まで八里 此村に真念庵と云ふ大師堂遍路に宿かす是よりあしすりへ七里」(『四國徧禮道指南』講談社学術文庫六六頁)とその存在が記述されている。

真念庵の境内には、元禄五年(一六九二)銘の真念の供養塔をはじめ四国八十八ヶ所の石仏などの近世の石造物が多数存在する。また、真念庵では現在も旧八月一四日に市野瀬部落主催で盆棚に供物を供え無縁仏の位牌を祀り施餓鬼法要が行われている。

真念庵の境内と前後のおよそ二キロメートルの遍路道は丁石や遍路墓等、多くの石造物が残り、その景観は近世以来の遍路道の風情を残している。

四国遍路道の世界遺産への登録が大きな目標となる中で、ここ土佐清水市下ノ加江、市野瀬の真念庵は四国遍路の歴史を物語るポイントとなる真念ゆかりの遺蹟であり、真念庵および所蔵資料の保護は緊急課題です。

全国の皆さん、真念庵改築の支援をお願いします！

(参考文献&部分抜粋＝土佐清水清水市文化財審議会報告書)